第２号様式（第４関係）

令和元年１２月１９日

調布市議会議長　　渡辺　進二郎　様

提出者　調布市議会副議長　　宮本　和実

視察等共通部分報告書

下記のとおり，視察（研修~~・視察研修~~）を実施いたしましたので，視察等個別部分報告書（第３号様式）を添えて報告いたします。

記

1　実施名称（テーマ）

第１４回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知

2　実施期日（期間）

令和元年１０月３０日(水)・３１日（木）

3　実施場所（~~視察先・~~研修会場）

高知ぢばさんセンター

4　実施目的

地方分権の時代に即応した議会機能の充実と活力に満ちた地域づくりに資することを目的とする。

5　参加者の氏名

宮本　和実，阿部　草太，雨宮　幸男，大須賀浩裕，大野　祐司，狩野　明彦，川畑　英樹，坂内　淳，澤井　慧，鈴木　宗貴，橘　正俊，平野　充，古川　陽菜，丸田　絵美，

6　実施結果（視察概要・研修概要）　　別紙記載のとおり

7　その他　　特になし

8　実施結果に対する所感，意見等

視察等個別部分報告書のとおり

調布市議会
-1.12.19
収第 1 号

研修概要

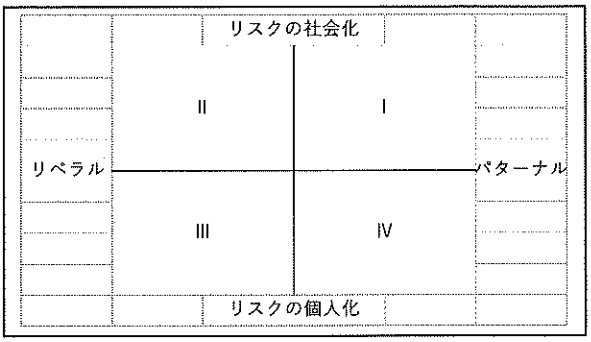
（１）　第１日（１０月３０日）

第１部　基調講演

現代政治のマトリクス―リベラル保守という可能性

中島　岳志　氏（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授）

１．政治のマトリクス



「政治」というものは，内政面において非常に大きく分けると２つの仕事をしている。お金をめぐる仕事（お金の出し入れ）と価値をめぐる仕事（価値認識）である。

配分（お金）の軸をｙ軸（縦軸），価値をめぐる軸をｘ軸（横軸）とする。縦軸の上は「リスクの社会化」で，社会全体で対応しましょうという考え方。セーフティーネットの強化である。一方，下は「リスクの個人化」で，個人で対応してくださいという考え方であり，自己責任論が強くなる。政治で言うと「小さな政府」となって偏っていく。横軸である価値の問題はリベラル（自由主義）とパターナル（父権的）である。リベラルの反対概念は「保守」と言われているが，これは間違いである。保守ではなく「パターナル（父権的）」である。強い者が価値のあり方について介入していくことを「パターナリズム」という。

政治家や政党を分析するときは，右・左あるいはリベラルや保守みたいな分けではなく，お金と価値をめぐって位置付けをしていくべきだと考える。

今の自民党（安倍内閣）は表で示すと右下のⅣ（ｙ軸：リスクの個人化／ｘ軸：パターナル）に該当する。ＬＧＢＴ問題，選択的夫婦別姓問題，先の歴史認識問題など，様々な形でパターナルなタイプであり，自由を積極的に容認する方向には舵を切っていない。安倍首相自身も自分の政治信条は「アンチリベラル」と公言している。では自民

党は昔からそうだったのかといえば違う。安倍総裁になってから衆議院選挙は３回実施されており，自民党の中央政界である衆議院の約半数は３回生議員であり，この人たちの傾向性は表の右下Ⅳにあたる。今から４０～５０年前はおおむね真ん中より上のゾーンで，自民党の一貫した大きな特徴であった。田中角栄はⅠ，大平正芳はⅡのゾーンで勝負をしてきた。二人のタイプは違うけれどもお互いを尊敬し認めあってきた。７０年代の保守の危機と言われた時代に，自民党の強い基盤を安定させることができた非常に重要な政治家であった。この上の二つのラインを日本政治では「保守本流」と言ってきた。現在の自民党は，必ずしも自民党が考えてきた戦後５０年，なるべくしてなって築いてきた保守本流の中核であるのかというと，この時代からは少しずれている。ここを大きく変化させたのが９０年代の政治である。８０年代では福祉にばかりお金を使っている体制を見直さなければならないという議論になり，ここに最初に手を付けた内閣が中曽根内閣である。そのほか橋本内閣や小渕内閣などの流れがあって小泉政権とつながり，ここで一気に自民党は表左下のⅢ「リスクの個人化」へと党の構図を動かしていくこととなる。Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳの順番で自民党は大きな変化を時代の中で遂げてきた。これが５０年間の自民党の変化である。

これに対し，野党はどうかというと，いろいろと揺れ動いている。今から２年前に「希望の党」が突然立ち上がったが，あっという間に大きな勢力を失っていくという事態があった。これは小池百合子氏が「排除」を示したので，国民がこれはおかしいとソッポを向いたのが原因であるといわれている。しかし，中島氏は排除の論理というものを小池氏が言う前にこの政党は絶対破壊することを主張していたとのこと。なぜなら，希望の党の中核にいたのは旧民主党の人たちで，前原氏が中心にいた。前原氏は「all for all（みんなで支えあいましょう）」を掲げており，リスクの社会化路線がその主張であった。この政党が自民党に近い小池氏と手を組んだ。いろいろな政治の組み方はあるが，図で示すと横とはパーシャル連合でもナナメと組むと何をや

りたい政治・政党なのか訳がわからなくなってしまう。小池氏と組んだ希望の党はどういうことを目指す政党なのかよくわからないというのが国民の反応であり，批判があがった。なぜそういう感覚を持ったかというと，二人は真逆の人であったにもかかわらずタッグを組んだからだ。こうしたなかで出てきたのが「枝野立て」である。「投票へ行っても何も変わらない」と考えていた主権者が枝野氏を支持したのだと思われる。

２．ラディカルデモグラシーとポピュリズム／３．リベラルの逆説

ラディカルデモグラシーの支柱は「もっと直接的な政治の参加ができるのではないか。何年かに一度投票に行くだけではなく，別の政治の関わり方があるのではないか。」という考え方。枝野氏は「立憲民主党はあなたです」という言い方をした。これが直接的に政治家を動かした，そして自分の場合は政治家に届いているという風に有権者が思うようなデモクラシーを起こした。これが立憲民主党にとって大きな支持を得た力の一つとなり，２０１７年に立憲民主党は大フィーバーした。しかし，２０１８年８月以降には支持率が急落することとなった。ラディカルデモグラシーは熱しやすく冷めやすい。自分たちの声が直接的に政治家を動かしていないという風に感じる。政治家からの疎外を感じる時にラディカルデモグラシーの風船は急激にしぼむという傾向が世界でも起こっている。この立憲民主党の埋没の間隙を縫って出てきたのが「れいわ新選組」の山本太郎氏である。

枝野氏と山本氏のラディカルデモクラシーは異なる。枝野氏は民主主義の基本的な考え方である「熟議デモクラシー」なのに対し，山本氏は対抗軸を作り真っ向から挑んでいく姿を見せることで，多くの民衆の感情を寄与させる「闘技デモクラシー」である。今後注目されるのは，熟議・闘技両方のデモクラシーがどういうバランスを取りながら昔の自民党が担っていたゾーンを共闘して作れるかが，もう一つの選択肢としての野党のあり方ではないだろうか。

４．保守とは何か？

野党がこのゾーンをとり，しっかりとした選択肢を作るというので

あれば，過去の「革新」という考え方では支持が集まらないと考える。自民党がかつて担っていたような「リベラルな保守」こそがもう一つの選択肢として立ち上げなければならない重要な概念であるというのが中島氏の主張である。

「保守」という言葉は幅広い言葉として一般的には使われているが，政治学においての「保守」という言葉はしっかりと定義づけをして使うという概念になっている。政治や思想で使う「保守」とはどういうものなのか？これには一つの歴史的な原点がある。それはフランス革命である。フランス革命に対する異議申し立ての中から近代保守思想が誕生してきたというのが政治学者の中での共通認識となっている。保守の立役者であるイギリスの政治思想家エドマンド・バーグは，フランス革命を激しく非難し，『フランス革命についての省察』を出版した。この書物は近代保守思想の起点になっている。バーグは「フランス革命をやっている人たちの人間観がおかしい」と主張し，保守するための改革を唱えた。

最後に中島氏は，保守本流というものを考えていくならば，必然的に「リベラル」という観点につながり，「リベラル保守」というものがひとつタッグを組んだ時に，日本の中にもう一つ重要な選択肢が生まれ，重要な政治のマトリクスとして求められるのではないかと述べた。

第２部　パネルディスカッション「議会活性化のための船中八策」

＜コーディネーター＞

坪井　ゆづる　氏（朝日新聞論説委員）

＜パネリスト＞

髙部　正男　氏（市町村職員中央研究所学長）

横田　響子　氏（株式会社コラボラボ代表取締役／
お茶の水女子大学客員准教授）

古川　康造　氏（高松丸亀町商店街振興組合理事長）

田鍋　　剛　氏（高知市議会議長）

各パネリストが「議会活性化のための船中八策」のテーマに沿って，地方議会に対する認識についてや，市民の議会への関心を深めるためにすべきことはなどについて議論した。

高部氏は，例外的な不祥事が大きく報道されることによって，議会全体のイメージがかなり左右されてしまうということがある。一生懸命取り組んでいる議員には損している部分があると思う。今回の地方統一選において，マスコミが共通的に取り上げている「自治体議会について指摘される問題点」は①投票率の低下（議会への無関心）②無投票当選の増加（議員のなり手不足）③議員層の偏り（女性や若者の参加減）であった。①と③は以前から続いてきた課題であったが，今回は無投票当選に関連した議員のなり手不足が大きく取り上げられた気がする。地方議会について「何をしているかわからない」「長の提案を追認ばかりしている」という人がいるが，このような意見は一つのとらえ方として受け止めるべき。好意的な面では，議会改革の取り組みが全国的に広がってきている印象。平成１８年の北海道栗山町の議会基本条例制定から１０年以上経ち，現在は６割以上が基本条例を制定しているほか，議会報告会，住民アンケート，大学との連携など市議会改革への取り組みが広がっている。議会基本条例は議員が議会の現状を認識して，議員同士が議論の上で条例をまとめてもらうことが重要である。

投票率の低下や政治の無関心については，選挙期日の統一や選挙区制度を検討したらどうか。また，議員のなり不足や女性が参加しやすい環境づくりについては，労働法制の見直しや兼業兼職規制の検討が必要。運営面での課題は，政策立案機能を重視することが強調されすぎではないかと感じている。行政監視機能が基本であるので，こちらをしっかりやるべき。議選監査委員は重要であると感じており，議会がしっかりとチェック機能を果たすことが大事である　などと述べた。

横田氏は，議会基本条例のことは初めて知った。議会で２０年後の住民のための幸せの議論がなされているのか。中長期的視点での議論がされているか気になっているところである。２つめにデータに基づいた政策づくり（ＥＢＰＭ）がされているか。ＥＢＰＭは霞が関では大変はやっている。３つめは多様性。２０年後の社会を考え，社会環境が変化している中で，新たな存在や仲間が増えているかどうかである。多様な人材でガチンコ会議を実施してほしい。経験の機会を提供ということで，２０年後の絵姿を見ながらどうしていきたいか，議会の政治家だけではなく地域の人と一緒に話し合う機会を増やしていくと，よりアイデアが増えていくと思う。住民との会話を作っていくことも大事であるなどと述べた。

古川氏は，市の中心部には例外なく商店街という商業が集積している。市の中心部が衰退するということは商店街が衰退するということ。国は国策として再生を図ろうとしたが，一般市民から見ると公費投入してまで再生させる必要があるのかというのが心情である。高松の中心部の衰退の大きな要因の一つはバブルであった。バブルによって地価が高騰したため，人が住めるような状況ではなくなり，多くの人が郊外へ転出していき中心部空洞化となった。中心市街地の再生ができない要因の一つに議会の構成がある。市中心部に住んでいた人が郊外へ転出したため中心部の票が全くない。よって議員構成もほとんどが郊外の人であり，議員は地域代表として活動するため，国策であるとはいえ中心市街地の人たちからすると「自分たちは議員に切り捨てられたのか」という話しかなっていかない。地元選出の議員は地元にと

っては大変頼りになっている。しかし裏返して言うと地元のためにならない議員は議員になってもらっては困るという「ローカリズム」がある。

個人的には議会改革は本当に必要なのかと思っている。改革するということは「何か困ったことがあって改革しよう」とするものだが，推察するとなり手が少ないことが問題なのではないか。何故なり手が少ないのか考えると，議員になると給料が公費で支給され一気に監視される。監視力があまりに強くて，一般市民からすると「ここまで言われるのか。ならばやっていられない。」という感想を持つようになる。自分たちが選んだ地域の代表である以上，リスペクトが必要だししかるべき報酬なども必要だと思う。普段の議員は何をしているのかよくわからないが，以前の議員とは全く異なり各議員よく勉強していると思う。この状況が市民には伝わっていないから，議員へのリスペクトがない　などと述べた。

田鍋氏は，高知市議会の定数は３４人で，そのほとんどがあまり仕事を持たない「専業議員」である。過去３回の選挙を振り返ると，立候補者数は一定数確保されていると思うが，女性立候補者は必ずしも多くない状況。投票率も非常に厳しい実情があり，今年の統一選では約３６％で，市民の政治離れに歯止めがかかっていないという状況が顕著に出ている。これまでは若い人の投票率の低さが問題であったが，今回の選挙では４０～５０代の投票率が落ちている状況で，議会の組織として何らかのアクションをしていく時期にきていると認識。高知市議会では市民に開かれた議会ということで，いろいろな団体と意見交換会を行っているが，まだまだ限定的。政策立案や提言を行う議会，行政の監視，評価をする議会ということで，平成２６年４月から議会独自の行政評価を開始した。議員が任期と役割をしっかりと認識して二元代表制の意義と意味を深く胸に刻まないと，魂の入った議会基本条例にはなりにくいと考える。

高知市議会での広報活動については，他市と同様であるが市議会だよりを年４回発行している　などと述べた。

第３部　課題討議

「議会活性化のための船中八策」

＜コーディネーター＞

坪井　ゆづる　氏（朝日新聞論説委員）

＜事例報告者＞

滝沢　一成　氏（上越市議会議員）

久坂　くにえ　氏（鎌倉市議会議長）

小林　雄二　氏（周南市議会議長）

各パネリストが「議会活性化のための船中八策」のテーマに沿って，各市の事例報告を行った。

上越市では，平成２９年３月に議長の諮問組織として「市議を目指しやすい環境整備検討会」を立ち上げた。「市議を目指すことを阻害する」現状の要因など把握し，その改革案を策定することを目的に市民との意見交換会を行ったが，ある市民からは「市議を目指せないのではなく，そもそも目指していないのだ。議会のことは知らないし，知りたいとも思わない。もとより興味がない。なぜならやりがいが全く感じられないし，存在価値が感じられないものに誰が議員なんかやるのか。それが一般市民の感情ですよ。」と言われた。どれだけ議会に魅力あるかということを，まずはやる気にさせる「こころの問題解決（市民と議会の距離を縮める）」からしないと次の「物理的問題解決（選挙の困難さ・物理的課題・取り巻く環境・女性特有の壁の打破）」に至らないことがわかった。このほか現職や前職議員アンケートを実施するなど，１年かけて計１９回にわたるミーティングを行い，「議員を目指しやすい環境整備」への５つの大項目と１９の小項目で構成する答申をまとめ，平成３０年３月に議長へ提出した。多種多様な提言内容のうち，「市民に関心をもってもらう，理解してもらう」「女性へのアプローチ」といった観点で，早急に取り組むべき７点（①議会傍聴の改革・活性化②模擬議会，議会体験学習の実施③意見交換会の改革④広報ＰＲの充実⑤選挙マニュアルの作成⑥議員報酬の

適正化⑦女性フォーラムの開催）を選出し，すぐに取り組んだ。議会改革推進こそ，議員を目指す人々を獲得する最大の力だと信じている。

行政監視機能の特長としては，委員会資料は非常に詳細で，全てにおいて状態目標，数値目標，具体的な取り組み内容，成果などを細かく書かせている。新人議員であっても何が課題なのかをはっきり把握できるようになっており，それが分かった上での適切な議論ができるということは，行政を監視しているという手段となっている。などの報告があった。

鎌倉市では，自身が現職議員で初めて出産した議員となった。その時は，会議規則が「出産」が欠席事由として規定されておらず，また期間の明記もなかったため，先輩議員の発議で出産を会議欠席事由に改正したが，産前産後休暇の明記はない。定めがない中でどうやって取得すればいいのか，その期間はどうやって考えたらよいのかなど悩みを持っていた。鎌倉市議会は女性議員も多くいたのだが，出産に当該する議員は自分が初めてであったため，そこで初めて「出産」の会議規則の見直しや会議の運営の仕方などについて検討されることになった。全国市議会議長会では「議員の位置づけを明確化すること」を長年国に要望している。法律で守られていない地方議員のあり方が，明らかに時代とミスマッチ，そして制度疲労を起こしていると考えている。会議規則は議員の手で変えることができる内容だ。会議規則を変えることが「議会は多様な人材と幅広い年齢層を受け入れる環境を整えている」という内外への宣言である。議会の価値を高めるものだと確信している。行政監視機能の特長としては，一番の課題となっているごみ処理行政で予算案に対して減額修正案を出したことは何度もある。党派の垣根を超えた複数会派で，行政が検討している新しいごみ処理施設の視察にも行った。一部の議員だけに留まらず，出来るだけ多数の会派に入ってもらい，情報共有することを徹底して行った。などの報告があった。

周南市では，平成１５年４月に２市２町の合併により議員数７８人でスタートしたが，議員報酬の差異が大きく，この問題により１年後

に住民投票に伴う議会解散を行い，新たに定数３４人で門出を切った。議会解散という経験と教訓がその後の議会改革の原動力となり，積極的に取り組んでいる。「市民により開かれた市議会」として「公開」と「対話」をキーワードに，議会活動への市民参画を促すとともに市議会に関心を持ってもらうことをテーマとして掲げている。議会改革特別委員会を設置し，平成１６年から１年間で合計１５回の委員会を開催した。「開かれた議会を目指して」として１１項目，「議員の資質向上を目指して」として１０項目のテーマについて協議検討を行った。同時に政治倫理条例制定特別委員会も設置し，合計１６回の委員会を開催して政治倫理条例を制定することとなった。その後の改正で市長，議長，副議長が対象だった資産公開は議員全員に広がっている。行政監視機能の特長としては，所管事務調査を積極的に活用している。会期中はもちろんのこと，閉会中においても市政における重要案件（特定事件）について積極的に調査を行い，執行機関を監視することはもちろんのこと，執行機関に対して課題等を提起することにより，効率的・効果的な事務執行を促している。また，平成２２年に１００条委員会を設置。平成２３年１月から３月までの間で計１６回の委員会を開催し，延べ１０人に対して証人尋問を実施している。などの報告があった。

第３号様式（第４関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	宮本和実

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

第１４回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知（10/30.31）
「議会活性化のための船中八策」

２　実施結果に対する所感、意見等
（質疑・意見交換した内容、今後の市政に生かすべき点等）

（１）基調講演【現代政治のマトリスク―リベラル保守という可能性】

今回の基調講演は、東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授の中島岳志氏による講演で、内容は過去 50 年の自民党政権の振り返りと今後の野党に求められる考え方、立ち位置についてのものである。

国政の選挙の流れなどについての内容が多く、一般国民向けのテレビ的には良いと思うが、はたして地方議員に対しての講演内容としては適切であったか疑問を感じた。私は政党に属さず地方議員として地方の政治に専念しているので、地方議会の活性化の講演を聞きたかった。

（２）パネルディスカッション【議会活性化のための船中八策】

2 日間にわたり行われた。初日は、コーディネーターを含め 5 名のパネリストにより意見交換がされる。

民間から女性社長 1 名、商店街理事長 1 名、公務員 1 名、議員 1 名に新聞社論説委員のコーディネートにより進められた。

2 日目は、コーディネーターは同じで 3 名の市議会議長により進められた。

様々な立場から地方議会についての感想や要望が発表された。内容は、議員はやはり行政の監視機能をしっかり取り組むべき。議員は 20 年後の姿を想定した議論や取り組みをして欲しい。データに基づいた政策作りをして欲しい。投票率向上に向けた対策として、全地方議員の投票日を統一してみてはどうか。年齢や性別に偏りがない議員構成にできないか。議員の活動が認知されていないのは広報の仕方に

問題があるのでは。議員から市民に寄って行く姿勢が大切では。等の意見である。
また、各市議会議長からは現在の状況や議会改革に対する考え方や課題などが発表された。
我が調布市議会においても、議会基本条例を作成し議会改革に取り組んでいるところである。地方の地方議会と比較すると、議員構成や少数会派の発言機会など内部的改革は進んでいると思う。また、議員が条例を提出できるように各常任委員会においての所管事務調査についてのルール作りもしたところである。
各地域の課題をお聞きしたが、共通の課題は投票率をどうやって上げていくか、ではないかと感じた。我が市においても、今年の市議会議員選挙の投票率は約 40％という低投票率であった。
そのためにも、様々な形で固定化せずに幅広い層の市民に接し語り合えるような機会を作っていくことが大切であると思う。
そして、二元代表制の意味をしっかりと理解し議員同士の闘いではなく、議会として何が出来るのか、市民の代表として何をすべきなのかを形にしていかなければならないと思う。
今回のフォーラムでは、改革途上の地方の話などをお聞きすることが出来たことは、我が身を振り返る良い機会として捉えたい。

３　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

第３号様式（第４関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	平野　充

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

第一部　　基調講演（初日）
「現代政治のマトリクス　リベラル保守という可能性」
中島岳志　東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授

第二部　　パネルディスカッション（初日）
「議会活性化のための船中八策」
コーディネーター・坪井ゆづる
パネリスト・高部正男　市町村職員中央研究所学長
横田響子　株式会社コラボラボ代表取締役　お茶の水女子大学客員准教授
古川康造　高松丸亀町商店街振興組合理事長
田鍋剛　高知市議会議長

課題討議（二日目）
議会活性化のための船中八策

コーディネーター・坪井ゆづる
事例報告者
滝沢一成　上越市議会議員
久坂くにえ　鎌倉市議会議長
小林雄二　周南市議会議長

令和元年 10 月 30・31 日
於：高知ぢばさんセンター

２　実施結果に対する所感，意見等

（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

【基調講演】

保守の概念とは？から話が始まった。
政治には二つの仕事がある（二つに分けられる）という。
お金をめぐる仕事（お金の出し入れ）。もう一つは価値認識の問題。そのことを縦軸に金（リスクの社会化とリスクの個人化）、横軸に価値と定めて講義された。
リスクの個人化とは、税金も取らないから自己責任でお願いしますというやり方。
リスクの社会化とは、税金もしっかりいただき社会全体で保障しますというもの。
リベラルとはヨーロッパにおける３０年戦争に端を発するとのことだが、決着はつかなかった。そして、リベラルとは、自分と価値観や思想が異なっても相手に対して寛容になることとの論。のちに、リベラルは自由・自由主義と理解されていく。リベラルの対抗概念はパターナル（父権的）であり、保守ではない。
パターナルとは干渉していくことを意味する。政党や政治を見比べていくときは、ここを見ていく。安倍内閣は、軸で言えばパターナルであり、リスクの個人化のところにある。国際的比較としては、日本は指折りの小さな政府。公務員の非正規が半分に及ぶ。これは災害に弱いと見ることができる。

日本の近年の歴史を振り返ると、地方から都心へ労働者が流れると社会党が強くなる。(中小企業の労働組合の強化)
そういった中で1968年には革新政治が生まれる。→保守の危機。
元総理大臣の大平さんと田中さんはお互いに惚れていたところがある。
ただ、政界ではいつまでも田中角栄のやり方には危機意識が芽生えた。これではお金がいくらあっても足りない。そこで、官から民へ（構造改革）と流れはじめた。これを最初に行ったのは中曽根。国鉄の民営化。そして小泉の郵政民営化。
座標軸でいうところの「３」へと移行していく。
そんな中、現在の自公政権は世界的にも珍しい座標軸でいうところの斜めの関係。連立の成功例と見える。
　二大政党制でも、だんだん似てくる。すると、投票率が下がる。
ラディカルデモクラシー（立憲民主党）。熱しやすいが、冷めやすい。それは何故か。自分たちの意見・考えが繋がらない。永田町論理になったとたん支持者が離れる。そして国民民主とのバタバタ。
そこへきて山本太郎は、枝野と同じ場所の位置づけだが、内容が違う。
枝野は熟議デモクラシー
山本は闘技デモクラシー
山本は日本では新たなパターン。

講義は「保守とは」に戻る。
歴史的な原点がある。それはフランス革命にある。「あの革命はおかしいぞと批判した」このことが、近代保守思想の始まり。
一気に変えることなく、徐々にグラデーションして変えていこう。これが保守の改革。グラジアル。最終的には、保守はリベラルに接近している。
自分と異なる意見を持った人たちとも
お互いに受け入れながら、政治を進めていこう。これが、保守の王道。私たちは完璧ではない。政治は６０点でいい。他をも受け入れていく。このような流れになってきている。以上、政治のマトリクスという講義を学んだ。

【パネルディスカッション】

高部・号泣議員を覚えているか。一部の議員の不祥事が面白おかしく報道されると全体のイメージダウンになる。統一選で浮き彫りになったのは成り手不足ではないかと感じる。原因は様々だと思う。住民目線での検証を。議員は何をしているか分からない。議会もそれぞれ努力し議会基本条例も６割に。ただし、作ることが終着ではない。また、地方分権一括法の内容を再度確認する必要あると感じる。
（以下、パネラーの意見）
横田・地元でも市議会議員は知らない。選挙のときは悩む。２０年後のことを観て政治を行ってほしい。小子化対策を意識してほしい。
政策は過去のデータをもとによく調べて行ってほしい。

古川・商売が行き詰まって何故公費で助けないといけないのかとの批判もある。
高松の衰退はバブル。駐車場が月５5000円で、地方へ逃げていった。市の中心部は人がいなくなった。しかし、市の中心部の商店は市議会の判断で活性化できた。
ローカリズム（地元のためにやってくれる）

高知議長・定数34に対し、平成23年には50人立候補。平成27年には40人。平

成31年には43人の立候補。住民意識は投票率36%の低投票率。そして女性が少ない。
96条を活用して・・・？
ゴミの有料化を議会で否決。

高部・市内でも更に区割りを細かくしてはどうか？意味不明。参考にならず。

横田・未来カルテ（千葉大学）を導入してはどうか？人口動態を考えて。
ガチンコ会議を多様な人材で実施してはどうか？住民との会話の場を考えてはどうか。

古川・議員はこの20年で大きく質が変わってきたのは確か。視察を受ける側からそれがよく分かる。

高部・決算の議会は、予算のときより、中味をあまり見ていないのでは？と問われ、会場から苦情の声が上がった。

（最後の会場との質疑）
〇決算のときに事務事業評価に時間をかけているか？とのことをパネリストから投げかけられた。
◉ 会場の半分くらいが手を上げた。

〇議会選出の監査委員の役目についてということで会場より質問が出た。
◉ 市長がお願いして議会から選ぶ形なので
遠慮なく言いたいことはキチンと言うべきだとのパネリストからの回答あり。

〇議会報告会は、イチモツ持っている人なので
議会から各団体への意見交換会にしたとの会場からの報告があり、あわせて、個人的には議会報告書も出しているが、どうすれば議会に関心持ってもらえるか？との問いが出る。
◉ 近う寄れという感じがする。話を聞け。
そうでなく、議員から寄ってきてほしいとのコーディネーターからの回答があった。

その他、コーディネーターより、
ＮＨＫに反感を持つ党の候補者が市会レベルで全国で何十人も当選したが、本来、地元の自治に何も関係ないことを言っているのに当選する。この現象は議員としてよく考えていかねばならない。日本の住民は自分の益になることは黙っているが、不利益になることには声が大きくなる。との意見がでた。

全体を通した感想として、
この１日目のパネルディスカッションのタイトルは「議会活性化のための船中八策」とのことだが、単に高知で行われるから名称を付けただけで、ほとんど参考になる話はなかった。パネリスト（横田）を選ぶ実行側の大きなミスと感じる。会場内からもブーイングが聞こえてくるほど。議会に無知な人がトンチンカンな話をされても調布ではすでに実行している事項など、あまり参考にならなかった。

【課題討議】（二日目）

（パネラーからの事例報告）
滝沢一成・上越市議会では、女性議員が極めて少なく、また、世代としても偏っていることが、興味を持っていただけない要因であると考えた。そこの解決を中心に議会改革を行ってきた。以下の７つの取組みを開始。
・議会傍聴の活性化
・模擬議会や議会体験学習の実施
・意見交換会の改革
・広報ＰＲの充実
・選挙マニュアルの作成
・議員報酬の適正化
・女性フォーラムの開催

議員報酬の適正化は難しい課題となり、進まず。
その他、議会のホームページに予算決算の執行状況を出している。

久坂くにえ
鎌倉市議会としては初めてのケースとして
出産をされた。鎌倉市議会では、会期中は夜９時・１０時まで会議が続くとの中、同時進行で模索しながら、女性議員の出産のケースの議会への出席のあり方が作られた。久坂くにえ議員はそのようなことを経て現在議長となられており、全国的にも貴重な人。全国から議員として出産を経験された女性議員からいくつか相談が持ちかけられていた。会議規則は議会で対応できる。時代の流れに取り残される地方議会ではいけない。その他、ゴミ処理予算を議会で修正させた。個別収集に予算がつき過ぎていた。

小林雄二
周南市では、平成１５年４月２１日、２市２町の合併による２年の在任特例により議員数７８名でスタート。１市４パターンの報酬だった。議員報酬の１本化を市長に要望し、市長は応えたが、報酬審議会より抗議。そして議会解散の是非を問う住民投票を求め「周南のよあけを導く会」が発足。議会解散請求に向けた署名は７０９１５人分（有権者・１２万７０００人）平成１６年３月議会最終日に動議による自主解散決議案が賛成３９・反対３８で議決。閉会後１３名が議員辞職。５月１６日に住民投票による解散投開票。投票率４６．５５％
賛成５２１２０票。反対５５０４票。このような経緯で出直し選挙をやった。
これをきっかけに議会改革が始まった。改革内容には全議員の資産公開も含まれている。→つくづく市町村合併の難しさを知った。

議会改革の中継や録画、事務事業の審査、政務活動費の情報公開など。
調布は進んでいると感じた。調布市では女性議員数は２８人中９人。約３割。
また、議員の年金については、地方議員が厚生年金に加入するなら市役所の非正規雇用の人も一緒に加入させるべきとの坪井コーディネーターの論。
久坂くにえ女性議長からの意見は若い成り手を考えると加入すべきとの論。

３　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

特になし

第３号様式（第４関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	坂内　淳

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

第 14 回　全国市議会議長会研究フォーラム　高知市

10 月 30 日(水)　基調講演

10 月 31 日(木)　パネルディスカッション・課題討議

２　実施結果に対する所感，意見等

（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

10 月 30 日～31 日　全国市議会議長会に参加した。

30 日は午後から基調講演とパネルディスカッション

31 日は午前　課題討議

あいさつ　会長　高知市長　地方分権時代の議会の役割

１基調講演　中島岳志氏

ｉ政治のマトリクス　政治勢力(政党)を経済と価値観を縦･横軸にして分類した問題意識には現政権の経済(社会保障)政策と現憲法の基本原則(主権在民や基本的人権の尊重)に対する態度への危機感があると考えられる、そのことは評価したい。また自民党田中内閣の政策をめぐって革新自治体の伸長との対抗関係での分析や最近の希望の党から立憲民主党、れいわ新撰組の伸長についての分析では民意との関係に言及されていた。ただこれが政党の価値観と経済政策の縦横軸の位置で説明されると、政治のダイナミズムを図式で裁断するように参加者には聞こえてしまったのではないかと心配している。

ⅱラディカルデモクラシー　熟議デモクラシーと闘技型デモクラシー、リベラリズムの逆説、保守とは何か

現実の課題との関係で　講師の問題意識には同意するが、概念でくくって展開されるとついていくのは難しい。

リベラル保守という講師の提起は、この 30 年間、グローバル化の中で格差拡大と、自国中心主義の台頭というなかでの双方への対抗思想としては興味深い。特に日本ではこの 30 年間、庶民の不満を入り口にするが出口はまったく違う「改革」を強引に推し進めることがリーダーシップだとして

パターナリズムから脱却できない中間団体の弱点をついて力を削ぎ、こうした中間団体が支えてきた巨大資本に対する社会的規制を緩和してきた。その結果こうした中間団体のパターナリズムを排して個人の自由の拡大が図られるはずだったのに、新たに「競争に勝ち抜いた者のパターナリズム」が社会に浸透、一般労働者の賃金は上がらず、ブラック企業・ブラックバイト・ブラック××が横行。政治・行政の場でも権力分立や憲法原則を無視することへの抵抗感が薄れている。こうした中で価値観としてのリベラリズムとアプリオリに「改革」遂行を前提にする政治に対し、バーグの理念先行に対する懐疑主義・漸進主義に着目したリベラル保守という講師の提起につながったと思う。

２パネルディスカッションと課題討議について

まず感じたのが基調報告のテーマ設定が住民生活の現実からではなく　「地方分権改革」という設計図から出発して、議会改革が遅れている、進んでいるという　問題意識から出発しているようだったこと。地方自治専門ジャーナリストや地方行政のオーソリティーの方たちはこういう発想なんだ　ということが分かった。

地域で活動しているパネラーの発言は現実に接しているだけに基調報告の枠組みにははまらない興味深さがあった。

自治体間競争があおられる中で自治体プロモーションやふるさと納税の獲得のため頑張っている姿は、地域への集客が利益につながる人々以外の住民からはどう見られているのか？丸亀商店街のパネラーからは「市民の中には商店街の再生に税金をつぎこんでまでやるべきなのかという意見もかなりある。商店街に住んでいる人は少なくて商店としては魅力なくなっている。『議会改革』といっているが、そもそも『議会改革』は必要なのか、接している議員は地域の声を聴いてよくやっていると思う。」という発言もあった。いずれも議論に値するテーマだと思う。

課題討議では、報告者の滝沢市議会議員から市民の市政・議会に対する目線のリアルな報告は興味深かった。「市民は興味が無い」という面をもっと掘下げたら面白かったと思う。

広域合併の影響や市民に身近な介護、医療、子育て施策の要望の実現に関し

てどうこたえてきたのか、方法論の前提として議論されるべきではなかったか？鎌倉市議会の報告はジェンダーの視点からも求められている事であり、「鎌倉だから、」ということにせず事例の交流など議長会としても全国的な促進の旗を振ってほしい。周南市議会の報告では議会解散の原因となった合併に伴う議員報酬大幅引き上げがどういう着地点をみたか、市民は納得したのかが知りたかった。

全体通して、議会改革で急ぐのは、議員間の差別を無くすこと、ジェンダー差別、議席数で発言権や採決権そのものを保証しない慣行を改めることだと感じた。他のテーマについては議会改革のテーマなのか一般施策なのか、公職選挙法なのかまず検討が必要ではないか。　以上

3　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

第３号様式（第４関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	古川　陽菜

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

第14回全国市議会議長会研究フォーラムin高知

① 基調講演「現代政治のマトリクス－リベラル保守という可能性」

講師　東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授　中島岳志氏

② パネルディスカッション「議会活性化のための船中八策」

③ 課題討議「議会活性化のための船中八策」

２　実施結果に対する所感，意見等

（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

① 基調講演「現代政治のマトリクス－リベラル保守という可能性」

講師の中島氏は、「セーフティーネット強化か、自己責任か（大きな政府か、小さな政府か）」といったお金の配分の高低、「リベラルか、パターナルか」といった価値の高低の２つの観点から政治を４つに分け、現政権をお金の配分が低く、パターナルな自民党とお金の配分が高く、リベラルな公明党の連立政権だと位置づけた。

また、現代の選挙の投票率の低下の一因は二大政党制にあるとし、二大政党は政策が似通ってきやすく、政権交代は可能になるが、似通った政策により有権者は「自分が選挙に行っても変わらないだろう」と考え、投票率の低下につながると説明した。そして、リベラルでお金の配分が低い保守の組み合わせこそが似通った二大政党とは異なる新たな勢力になりえるとまとめた。このことから、多様な政策を有権者に示すことが有権者の政治への関心を高め、投票率の向上につなげるために重要であると考えられる。

② パネルディスカッション「議会活性化のための船中八策」

二部は、朝日新聞論説委員の坪井ゆづる氏をコーディネーターとし、４人のパネリストのもと、議会の外から見た議会の問題点について討論が行われた。地方議会では、投票率の低下、無投票当選の増加（議員のなり手不足）、議員構成の偏り、政務活動費の不正使用などが問題点として上げられ、住民の目線から見ると「議会が何をしているかわからない」、「審議が形式的である」、「市長のYesマンと見られてしまっている」などが問題点であるとした。

議会が市民からの意見を聞く場である議会報告会も形式が固定化してしまっており、単純に話題がつまらないため市民の関心が向かないという。つまり、議会側から市民に歩み寄ることが必要で、議会報告会や意見交換会では身近な話題にテーマを絞り、市民に関心を持ってもらうことが重要だと再認識させられた。

③ 課題討議「議会活性化のための船中八策」

三部は、二部に引き続き坪井氏をコーディネーターとし、現状を打破するために具体的に何をやっていく必要があるか、３人の市議会議長から事例報告があり、質疑応答の後に坪井氏がまとめた。

事例報告の中で上越市議会では、なり手不足問題を解消するために「なぜ若者・女性は市議会議員を目指さないのか」、「どんな阻害要因をなくしたらあなたは議員に出馬するか」といったテーマで市民との意見交換会を行い、議会改革を推進し、市民にとって魅力的な議会になることが議員を目指す人々を獲得する最大の力になりうるとまとめた。また上越市では、議会報告会や意見交換会で市民から出された意見について課題調査会を開き、調査結果を市民に公開しているそうだ。議会報告会や意見交換会を市民の興味を持ちそうなテーマに絞って行い、興味を持って参加してもらい、それから頂いた意見については調査や検討を行い、結果を公開することで市民の「自分の声が市政に反映されている」と実感につながり、さらに市政に関心を持ってもらうことにつながると思われる。

調布市においても、今年の１１月に１０回目の議会報告会が開かれたが、市民の参加は１０数名と寂しいもので、今回は改選後初の議会報告会であったので大きく内容は変えなかったが、今後テーマの選定、意見の聴取の仕方、頂いた意見への調査・検討方法などは今後、検討していく余地があるように思う。

そして、行政監視機能を向上させるために、鎌倉市では議会の開閉会中に限らず、政策研究会を行っており、周南市では指定管理者制についてなど積極的に所管事務調査を行っているという。

調布市においては、閉会中の常任委員会での所管事務調査について規定がなかったために、議会運営委員会で規定を作成中であり、今後規定が制定され、議会の開閉会中問わず積極的に勉強会や、事務調査を行っていく必要が

あると考える。

最後に、坪井氏は「議会活性化のための船中八策」として議会活性化のためには、1）行政監視機能の向上、2）次世代を見据えた視点、3）データを踏まえた議論、4）議員の多様性の確保（年齢・性別の偏りなく）、5）議会側から市民に仕掛けていくこと、6）（議員になるために退職しなければならないような）労働法制の見直し、7）情報公開の徹底が必要とまとめた。

7点ともこれからの議会活性化のためには重要であるが、特に2点目の「次世代を見据えた視点」については、現在人口が増加している調布市においても近い将来に人口の減少が推測されており、人口減少を視野に入れた施策を考えていかなければならないと考えられる。

3　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

文中に記載。

第３号様式（第４関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	阿部　草太

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

第14回全国市議会議長会研究フォーラムin高知　10月30・３１日
議題《議会活性化のための船中八策》

２　実施結果に対する所感，意見等
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

１、議会活性化の為の課題

多くの市民が、議会で何をしているのか分からない。認知されていないことが挙げられた。認知されていない要因として、若年層の関心のなさなどがあげられた。そのことから、他市では現状、議員のなり手不足・高齢化・女性率の低さが顕著にでてきている。この課題に対して、まずは議会が自治の主役として役割を果たすという事があがった。行政監視機能としての議会がもっと機能するべきで、もっと条例の制定などを積極的に行うべきという意見が上がった。

市民への周知の低さの課題は、調布市も含め多くの市が抱えている課題であり、これに対する具体的対策として調布市ではすでに行われている議会報告会などがあがったが大きな効果は現状難しいことも分かった。他市でも、議会報告会などでは、日常から議会に関心をもってもらっている方が多く、新たに関心をもってもらう事にはつながっていない。

他市と比較した際には、調布市では女性の率は高いように見えるが産休などの制度化を行い周知させる必要はあると思われる。

議員の副業のあり方にも話題は及んだ、市議会議員選挙への出馬のしやすさを求める意見だった。勤めている会社や役所を、退職せずに出馬できる様にして候補者を増やすという意見だった。現状では、民間企業などからの理解を得るのは難しいとのことだった。

以上の事を議論されたが、具体的な現状を打開するような意見はなく、今後も各自治体で模索していくように感じた。

意見としては、議場で待っていても、いつまでも課題は解決できないので待

っているのではなく人の集まるところへ議員が行きアピールする必要がある様に思えた。主権者教育も含め、全国的な政治への関心のなさを打開するよう、まずは市議会議員が多くの方に直接、自分の言葉で市民に語り掛けて知ってもらい、関心を持ってもらえるように努めるべきだと思いました。

3　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

・議会報告会のやり方

・議員の産休・育休制度

第３号様式（第４関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	澤井　慧

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

全国市議会議長会研究フォーラム（令和元年 10 月 30～31 日）
『議会活性化のための船中八策』

２　実施結果に対する所感，意見等
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

本フォーラムでは議会活性化について議会の取り組むべき課題について議論がなされた。本市においても議会の権能強化や議会改革が急務である。二元代表制として、行政が提案する政策に対して追認するだけではなく、対等な立場として市民の意見を反映させていく関係性の構築が急務である。それを推進していく一つの手段が議員提案の更なる活用である。本市では議員による政策的条例案の提出は数えるほどしかない。今後は常任委員会を初めとして、議員がしっかりと政策を作り、議会に提出できる環境を整備する必要があると考える。また現在行っている議会報告会に加えて、一般市民がより議会に興味を持ち、そして参画してもらえるような機会を構築していくことが今後の議会の活性化及び強化に繋がると考える。

３　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

第３号様式（第４関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	大野　祐司

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

全国市議会議長会研究フォーラム
（基調講演、パネルディスカッション、課題討議）

２　実施結果に対する所感，意見等
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

＜基調講演＞

「現代政治のマトリクス－リベラル保守という可能性」

中島　岳志氏（東京工業大学リベラルアーツ研究教育員教授）

自民党の保守の歴史である、田中角栄から大平正芳、小泉純一郎、安部晋三の順にセーフティーネット強化（リスクの社会化）から自己責任（リスクの個人化）になっていると力説していた。

６０点の政治は、自分たちの間違いを探し、他人の意見を取り入れていくので良いが、１００点の政治は、自分が正しいとおごれるので、良い政治にはならないと説明していた。この点は共感した。

＜パネルディスカッション、課題討議＞

「議会活性化のための船中八策」

坪井　ゆづる氏（朝日新聞論説委員）

議会と市民の関係では、もっと開かれた議会（市議会）にしていく必要がある。そのために議会報告会を開催するが、つまらないから市民が集まらない。（選挙での投票率が低下している点も同様か）

議員のなり手が少ない点は、立候補したら、仕事をやめるなどのルールを企業側も見直したり、もっと魅力ある待遇を用意すべきかとの議論もあった。

３　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

２年連続で当会議に出席し、議会改革の議論を聞いたが、調布市ではすでに行っていることが多く、会議の必要性に疑問を持ちました。

第３号様式（第４関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	丸田　絵美

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

第 14 回　全国市議会議長会研究フォーラム

２　実施結果に対する所感，意見等

（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

【基調講演】

「現代政治のマトリクス ― リベラル保守という可能性」～中島岳志氏

政治の主義、主張をマトリクスにＸ軸とＹ軸で表示しながら、（安倍首相は「リスクの個人化でパターナル」、大平元総理は「リスクの社会化でリベラル」といった形に）分類をしながら、過去から現在に至る政治の話をしてくださった。もともと自由主義と訳されている「リベラル」については「寛容」と訳すのが妥当だという説明。寛容な政治姿勢に歴代総理をあてはめながら、これまでの政治を先生の視点で分析された。田中角栄元総理は人心掌握術にたけていたことを、大平元総理は尊敬していた。また、大平元総理の高学歴、知的で大きな構想を展開させる発想力を田中元総理は尊敬していたという、主義主張は違ってもお互いにリスペクトし合い、認め合っていた所から、もとより「寛容」であった自民党政治 50 年を振り返ってきた。世界的な社会背景とも照らし合わせ、こういう時代だからこういう主張が主流になるといった説明、1960 年代から 70 年代は保守の危機という時代。農家を出て、都会に労働者がたくさん流入していた時代、保守より革新に寄っていった。右派と左派の関係において、希望の党の失敗、立憲民主党の作戦などを紹介していた。現在の自公政権は、興味深い事例で、本来なら対極にあるものが一致していくのは難しいことだが、バランスを保っているという点は面白かった。

保守とは？伝統主義と保守分解して区別。フランス革命の「人間観」は変？人間の理性を問う？あたりは、ちょっと理解ができかねたが、保守のための革新の必要性、変化を求める心と、合理的に変えていくことへの懐疑性。現在の社会は、過去からの経験、知的財産の上に普遍的に成立している。さすがに研究者だけあって、いろいろな背景から割り出している点は面白かったが、それで？という突っ込みには、解決が無かったのが残念である。

【パネルディスカッション】～議会活性化のための船中八策～

コーディネーターは坪井ゆづる氏（朝日新聞論説委員）

パネリストは、4名の議会中央研修所長、女性活躍推進委員、商店街理事長、議長といった立場の方々であった。

議会は、首長とともに車の両輪として、地方政治、自治の主役である。いまさらともいえる始まり方。議会改革といわれて久しいが、いまだに改革が進んでいない事実を挙げ、行政の監視機能の現状、人口減少に始まる地域の課題やいま日本で抱えている問題に、地方としてどう向き合うかといった政策論議の進め方、災害対応などの即応性。女性・若者をどのようにして議会へ送るのといったなり手のいない議会問題、関心のない住民など、課題を挙げていった。

高知という土地柄、「船中八策」になぞらえて、課題を解決していきたかったのだろうが、今回のフォーラムは「策を練る」という観点からはあまり参考になる部分がなかったような気がする。

ゴミ袋有料化の市長提案に反対して撤回させた。これは市長提案を丸呑みするのではなく、住民の意思を貫いて市長に対峙した一例である。などという話は、個人的な感想としては、では持続可能な社会の実現のために、ごみの排出量減量の問題や、将来世代にどのように負担を減らしていくのか、ごみ問題の先送りではないのかといった疑問を持った。

先出の女性議員のなり手が少ない問題では、「女性を説得するには、断られても断られても、少なくとも5回は口説くのが良い」などといった話が、なんと女性活躍推進のために国で議論されている委員であり、大学の准教授である先生から出たのは、残念以外の何物でもない。女性の置かれている状況や、結婚や出産といった背景のむずかしさ、土地によってはまだ根強い差別感など、解決しなければならない問題が棚にあげられての発言であり、確かに現実ではそうかもしれないが根本解決の観点からはここに落としてしまうと解決は難しいと改めて感じた次第。

一つ「20年後の住民は幸せですか？」この問いに関しては、響くものがあった。女性からのものだが、私たちの求めるものは、この一言で網羅されている気がした。20年後といわず、もっと近い将来5年後・10年後、またはもっと先の50年後・100年後もではあるが。

【課題討議】　～議会活性化のための船中八策～

前日と同じ、朝日新聞論説委員の坪井ゆづる氏がコーディネーターとして、前日の振り返りと参加者からの意見や質問などを入れながら、まとめに入った。

若者の意見をどう取り入れていくのか、女性活躍のための環境をどのように整えるのか、市民意見の聴取の方法、請願・陳情の扱い、一人会派を含めた、委員会等の陳述や質疑応答の扱い方、首長との対等な関係を保つために行っている努力等々各議会における現状と工夫、などが報告された。

女性が一人もいない議会の割合や、いても30人中4人などといった、割合の現状、どのような方法が求められるのかという課題については、まずは環境の整備が重要という意見であった。

たとえば、産前産後の妊婦や、子どもの検診などは法廷で決められているものだが、議会の制度が追い付いていない現状がある。IPU「ジェンダーに配慮した議会のための行動計画」これは、世界174の国で加盟しているが、これは議会（仕事）と家庭の両方支援のためのインフラ整備及び改善を求めているものである。会議規則は自ら変えることができるものであることから、議会で立ち遅れている部分のミスマッチを、今の社会情勢に置き換えて改善していくことは必須である。議員年金の在り方、失業保険や退職金についても一考の余地があり、優れた人材の確保や議会の質の向上には説得力のある理論展開をしていく必要から、このような点も議論すべきである。

行政監視機能を高めていく（栗山町の条例制定等）。次世代を見据えた議論（未来カルテ・データを踏まえた議論等）、多様性の担保（若者・女性・障がい者他）労働法制の見直し（副職・兼職の可能性）、情報公開の徹底など、今回のフォーラムでも指摘されていたが、随所に出て来る話題や質疑応答などを聞いていても、個人の議案に対する賛否はあえて公開していない、とか、議論はHPや議会報で公開しているからよい、一人会派の扱い方は、委員会での質疑を認めず議長に申し入れ書で済ます、というところもあり、驚いたというのが正直なところでもある。

3　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

議会改革や、質の向上は常に先を見て進めていく課題であることは再認識した。今回の感想は率直に辛辣ではあるが本文中に記載。

第３号様式（第４関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	狩野明彦

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

令和元年　全国市議会議長会研究フォーラム

１）基調講演　「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」講師　東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授

中島岳志　氏

２）パネルディスカッション「議会活性化のための船中八策」

３）課題討議　「議会活性化のための船中八策」

２　実施結果に対する所感，意見等

（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

１）政治の基盤は①お金（税）の配分②価値であると最初に講師は言う。①お金の配分をＹ軸に、対立軸としてリスクの社会化（セーフティネットの強化）とリスクの個人化（個人責任）の対比、②価値をＸ軸に、対立軸としてリベラル（寛容・自由）とパターナル（父親的温情主義）の対比とした時の政治家の立ち位置、考え方を分析している。

そして過去の自民党政権の立ち位置の移り変わりや具体的な政策からくる考え方の変遷をわかりやすく教えていただくと、実際に自民党政権は、田中角栄の列島改造論から小泉純一郎の新自由主義までで、上記の図表を一周している。

租税負担率、ＧＤＰに占める国家歳出、公務員数などから他の諸外国に比べ日本は小さい政府でありリスクの社会化が進んでいるとはいいがたいが、福祉を重視する政党がその方向性を持っているとの事であった。

リベラルと保守が決して対立するものではないという講師の論点は、人間（人間社会）の完成不可能性からくる保守のための緩やかな改革をしていく事であるとしている。

根拠が希薄な耳障りの良い政策を流す、ポピュリズムと言われるように問題を単純化し、思考や議論を回避することがどのような害悪をもたらすか、語りかけ考えてもらう努力を惜しまないことが重

要であると思う。

２）基本的に「いまだに自覚に欠ける議員が存在している」といった、ある一部の議員を主題とする話の進め方の何が船中八策なのかわからなかった。調布市における議会改革は確かにまだ道半ばではあるが、パネリストの発言はあまり納得するものではなかった。

ＥＢＰＭ（エビデンスベースドポリシーメイキング）やＰＤＣＡなど、ありきたりな話もあり何を言いたいのかわからなかった。

その中でも高松丸亀町の土地の所有と利用の分離は、調布市のまちのエリアマネジメント（再開発とテナントミックス）としては参考になる話であった。

３）女性議員、なり手不足、議会改革についての課題討議であったが、調布市議会における課題では、議員の出産や育児・看護における環境整備や規定の整備がなされておらず、今回の討議の内容を検討していきたい。

３　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

○今後の課題として

議会改革を主題にするとき外部からのご意見ご指摘も参考にはなるが、他市における先進事例の紹介をもっとしていただいたほうが参考になる。今回もパネリストの視点が遅れている議会、もしくは自覚のない議会を中心に語っていたのがあまり参考にならなかったと思う。

第３号様式（第４関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	鈴　木　宗　貴

１　視察（研修）の実施名称（テーマ）

第１４回全国市議会議員研究フォーラム
①　現代政治のマトリクス　－リベラル保守という可能性－
②　議会活性化のための船中八策

２　実施結果に対する所感，意見等
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

①　あくまでも講師による分析と考察ということでの基調講演であり、参考になるものでは無かった。政治のマトリクスということで、小さな政府と大きな政府（講師はセーフティーネット強化型としている）の軸と、リベラルとパターナル（講師は父権的としている）の軸で、４つの形でのマトリクスで政治体制を解説し、講師が理想とする体制を示して講演を終えた。

②　先進的な取り組みを行っている議会による政策提案となっていなかったことが非常に残念であった。一方で、調布市の議会改革が進んでいることを再認識することとなった。タブレットの導入によりさらに改革が進むものと考える。

議員のなり手不足、特に女性や若手について多くの時間がとられていたが、上越市議会議長が、「大きな問題と思わない、議員に関心がないんだ」という発言の通りで、大多数は政治自体に関心を持たない中で、地方議会に関心を持たせること自体に無理がある。市民生活にとって重要な問題が発生した時にこそ、議会としての機能が発揮できることこそが重要であると考えさせられた。

また、議員の負担や報酬などについても触れられたが、管理職のなりて不足が深刻であり、その一因に議会対応があげられている中で、議会としての職員の負担軽減ということにも目が向けられるべきであると考える。鎌倉市議会議長が、夜９時、１０時が当たり前の議会であったことを紹介し、保育の苦労を語ったが、職員も同様の苦労をされていることに触れらなかったことは残念であった。

最後に、二日間にわたっての議論から、コーディネーターが７項目をまとめたが、本市議会にとっては、すでに対応してきている内容であったと認識した。

３　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

議会の政策・法務能力向上のための取り組みについて

第３号様式（第４関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	橘　正俊

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

＝全国市議会議長会研究フォーラム in 高知＝

◎基調講演「現代政治のマトリクス-リベラル保守という可能性」

講演者：中島岳志氏

◎パネルディスカッション・課題討議「議会活性化のための船中八策」

２　実施結果に対する所感，意見等

（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

今回の研究フォーラムでは、議会を活性化させる為の諸先生方からのアドバイスや、実際に取り組んでいる議会の事例を伺う事が出来、大変勉強になりました。

パネルディスカッションでは高部先生はじめ、一般企業の社長でもある横田氏の女性の視点での意見も参考になりました。また高松丸亀商店街の古川理事長からは、地元に密着した市議会議員の活動を大変高く評価されていたのが印象的でした。地元に根差した市議との情報共有しながら商店街活性化に取り組んでいるとの話には、大変共感するものがありました。会派におきましても高松丸亀町商店街に伺い、中心市街地再生に向けた取り組みを勉強させて頂きたいと思います。

課題討論では上越市・鎌倉市・周南市の議長による、各議会での取り組み事例の発表がありました。上越市議会の「市議を目指しやすい環境整備」は、本市の議会では一度も検討されていません。地方分権においては、このような取り組みも大切であると感じた次第です。

女性議長の鎌倉市議会では、女性議員の環境整備に向けた取り組みの事例紹介がありました。この事例も今後本市でも整備していかなければならない課題であると実感しました。

学ぶ点が多々あり、大変有意義な研究フォーラムでありました。

３　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

・研究⇒市議を目指しやすい議会（特に若者や女性）

・課題⇒議会における女性の環境整備

第３号様式（第４関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	雨宮　幸男

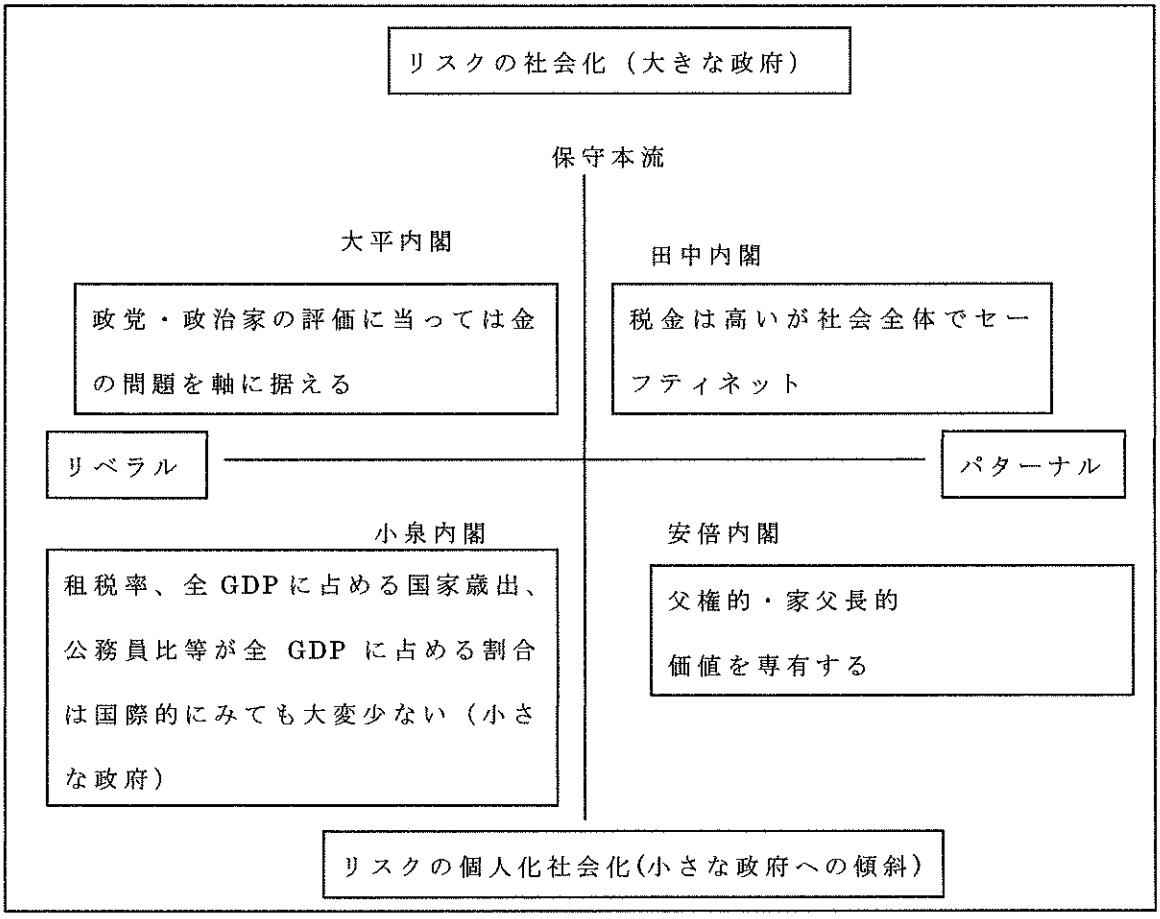
１　視察（研修・~~視察研修~~）の実施名称（テーマ）

全国市議会議長会
研究フォーラム　in　高知

２　実施結果に対する所感，意見等
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

１、【基調講演】　現代政治のマトリクス－リベラル保守という可能性
講師　中島　岳志　氏（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授）

日本の保守政治(自民党政権)を、田中角栄政権から大平正芳政権、小泉純一郎政権、現在の安倍晋三政権までの４政権について、その政治的性格によりマトリクス状に４つの政治パターン(保守本流（田中、大平）～家父長的政治(安倍))に分類し、其々の特徴を解明。(下図)



上記の記述は講演テーマの一端であるが、他の演題については割愛する。

＊同講師の講演は政治学的・政治論としては興味深いものだったが、地方議員としての私たちはどの様に対応するべきかは疑念をもった。

２、「議会活性化のための船中八策」のパネルディスカッションと課題討議は市議会も含めた各界、各分野からの発言は、課題ごとに其々充実していた。

現在、調布市議会でも「議会基本条例」に基づき、逐条的に見直しに取り組んでいるが、より機能的な条例となるよう見直しを進めていいきたい。

以　上

３　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

第３号様式（第４関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	川畑英樹

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

第 14 回全国市議会議長会フォーラム in 高知　2019/10/30～31

【議会活性化のための「船中八策」】

２　実施結果に対する所感，意見等

（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

10 月 30 日に、東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授の中島岳志氏を迎え、（現代社会のマトリックス-リベラル保守という可能性）と云うテーマでの基調講演があった。

図表を示し説明があった。Ｙ軸は配当をめぐる軸・・・セーフティーネットの強化（リスクに社会化）vs 自己責任（リスクの個人）。Ｘ軸は価値をめぐる軸・・・リベラル vs パターナル。「リスクの個人化」は、個人で対応という考え方で自己責任論が強くなる。政治で言うと「小さな政治」に偏っている。「リスクの社会化」とは「みんなで補いましょう」という考えで、「大きな政治」に向かうと中島氏は分析している。その図に自民党の過去の 50 年をあて解説された、2017 年 10 月の立憲民主党フィーバー「枝野立て」など話されたが、今回の基調講演は国政の総括で終始した感がある。

２部の【パネルデスカション】では、朝日新聞解説委員の坪井ゆずる氏のコーデーネーターにより、地元の高知市議会議長を含め、女性経営者、商店街組合長などにより地方議会のあるべき姿と議会改革の取り組み方について、討議がなされた。また、翌日も坪井氏のコーデネーターで【パネルデスカッション】が上越市議会議員、鎌倉市議会議長、周南市議会議長が、それぞれ取り組まれている議会改革について報告と意見交換が行われ、船中八策が取りまとめられた。

３　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

２日間にわたる、今回の研究フォーラムは、船中八策を導き出したことには意味があるが、こじつけた感が否めない。議会改革は全国個々地域差があり、努力格差もある。調布市議会は、議会改革・議員意識についても、しっかりと取り組んでいると感じる。

第３号様式(第４関係)

視察等個別部分報告書	作成者氏名	大須賀浩裕

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

全国市議会議長会第 14 回研究フォーラム
テーマ「議会活性化のための『船中八策』」

２　実施結果に対する所感，意見等
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

◎基調講演「現代政治のマトリックス～リベラル保守と言う可能性」
中島岳志・東京工業大学授
「リベラル」の反対概念が保守ではなく「パターナル」（父権的）と言う考え方は興味深い。過去の「革新」と言う概念ではなく、大平内閣のように自民党の一部がかつて担っていた「リベラルな保守」がこれからのもう一つの選択肢として必要だとすることには同感。

◎パネルディスカッション「議会活性化のための船中八策」
議員のなり手不足対策として地方自治法や公職選挙法にある兼業職規制の改正と議会選出監査委員の必要性については同感。古川氏の「議員が地域の代表である以上、市民によるリスペクトが必要だし、しかるべき報酬も必要」との意見には大賛成。

◎事例報告「議会活性化のための船中八策」
「住民との意見交換会」「議会モニター制度」「中学生の模擬議会」は興味深い。
上越市議会の①委員会資料(状態目標、数値目標、取り組み内容、成果等)が詳細なこと、②議会報告会・意見交換会を市内 28 の地域自治会で行うこと、③農協・ケアマネジャー等とテーマを絞った意見交換会を実施していることは大いに参考にしたい。

３　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

今後は、市長会主催の都市問題会議と議長会フォーラムとの選択制もありかなと思う。